【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成19年11月8日(2007.11.8)

【公開番号】特開2006-94447(P2006-94447A)
【公開日】平成18年4月6日(2006.4.6)
【年通号数】公開・登録公報2006-014
【出願番号】特願2004-280738(P2004-280738)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　7/16　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　20/10　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　20/12　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　27/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/44　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/91　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　7/16　Ｚ
Ｇ１１Ｂ　20/10　Ｄ
Ｇ１１Ｂ　20/10　Ｈ
Ｇ１１Ｂ　20/10　３１１
Ｇ１１Ｂ　20/12
Ｇ１１Ｂ　27/00　Ｄ
Ｈ０４Ｎ　5/44　Ｚ
Ｈ０４Ｎ　5/91　Ｐ

【手続補正書】
【提出日】平成19年9月19日(2007.9.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
放送信号を受信し選局して受信信号を出力するチューナ部と、
前記チューナ部の前記受信信号を復調して映像音声信号を出力する復調部と、
前記映像音声信号を暗号化して暗号化映像音声信号を出力する暗号部と、
前記復調部からの映像音声信号又は前記暗号部からの前記暗号化映像音声信号を格納するバッファ部と、
前記映像音声信号を前記暗号部で暗号化する場合は、前記映像音声信号を前記暗号部で第１容量の第１ファイル毎に暗号化して、前記バッファ部の記憶領域に転送して格納し、前記映像音声信号を暗号化しない場合は、前記映像音声信号を前記第１容量よりも少ない第２容量の複数の第２ファイル毎に前記バッファ部の記憶領域に前記第２容量毎にそれぞれ連続して格納するべく制御する制御部とを具備することを特徴とする放送受信装置。
【請求項２】
ネットワークを介して外部の記録装置と通信を行う通信部と、
前記通信部が通信を行うネットワーク上の前記記録装置の一つを、前記復調部が出力する前記映像音声信号を記録する記録装置として登録する登録部とを更に有しており、
前記制御部は、前記バッファ部に格納された前記映像音声信号又は前記暗号化映像音声信号を、前記通信部を用いて、前記登録部が登録したネットワーク上の記録装置に記録す

るべく制御することを特徴とする請求項１記載の放送受信装置。
【請求項３】
前記復調部が復調した前記映像音声信号をＭＰＥＧデコードして、デコードされた信号を前記暗号部又は前記バッファ部に供給するＭＰＥＧデコード部を更に具備する請求項１記載の放送受信装置。
【請求項４】
前記制御部は、前記復調部が復調した前記映像音声信号を暗号化するかどうかの判断結果に応じたフラグ情報を前記映像音声信号に追加することを特徴とする請求項１記載の放送受信装置。
【請求項５】
前記制御部は、前記チューナ部が受信した放送信号がデジタル放送信号であるとき、前記映像音声信号を暗号化するべきものと判断することを特徴とする請求項１記載の放送受信装置。
【請求項６】
前記制御部は、前記チューナ部が受信した放送信号がデジタル放送信号、又は、コピー制御情報を含むアナログ放送信号であるとき、前記映像音声信号を暗号化するべきものと判断することを特徴とする請求項１記載の放送受信装置。
【請求項７】
前記制御部は、予めユーザにより設定された設定条件と、前記チューナ部が受信した放送信号の種類とに基づいて、前記映像音声信号を暗号化するべきかどうかを判断することを特徴とする請求項１記載の放送受信装置。
【請求項８】
放送信号を受信し選局して受信信号を出力し、
前記受信信号を復調して映像音声信号を出力し、
前記映像音声信号を暗号化して暗号化映像音声信号を出力し、
前記映像音声信号を暗号化する場合は、前記映像音声信号を第１容量の第１ファイル毎に暗号化して、記憶領域に転送して格納し、前記映像音声信号を暗号化しない場合は、前記映像音声信号を前記第１容量よりも少ない第２容量の複数の第２ファイル毎に記憶領域に前記第２容量毎にそれぞれ連続して格納するべく制御することを特徴とする放送受信方法。